健康メモ

胃がんの治療について

胃がんは日本人に多い悪性腫瘍のひとつです。胃がんによる死亡率は男性では肺がんに次いで第2位、女性では大腸がんに次いで第2位となっています。胃がんの治療は外科的切除（開腹手術）が中心ですが、近年では内視鏡に関する技術や機器の進歩により、胃カメラによる治療（開腹をしない）や腹腔鏡下手術（腹部の傷口が小さくなり、手術後の体力的負担が減る）も行われるようになってきました。しかし、すべての胃がんに対して胃カメラによる治療や腹腔鏡下手術が可能というわけではなく、胃がんの進行度、部位、性状によって適応が限られてきます。一般的には、胃がんに対する治療は外科的切除がメーンであると考えてください。そのほか、胃がんに対しては抗がん剤による治療（化学療法）も行われています。手術の後に補助療法として行う場合や事情により手術ができない場合、がんが再発した場合などに行われることが多いです。

胃がんの治療で大切なことは、病気の状態や患者さんの状態に応じて最も適切な治療を行うことですが、もうひとつ大切なことは、なるべく早期の状態（がんがあまり進行していない状態）で治療を行うことです。これは胃がんに限らずすべてのがんに当てはまることで、そのためには、がんを早期に発見するしかありません。胃がんを早期に見つける血液検査は今のところありませんし、胃がんに特有の症状もありません。胃がんを確実に診断する唯一の検査は胃カメラです。胃カメラに対するイメージは人それぞれでしょうが、「つらい検査」というイメージを持っている人がほとんどではないかと思います。しかし、胃カメラにかかわるスタッフも患者さんが少しでも楽に検査を受けることができるよう、さまざまな工夫を凝らしています。

〔旭市医師会〕

胃がん検診のすすめ

検診の詳細は3/1号の特集ページに掲載します。

市で実施している検診はバリウム検査です。要精密検査になった人は、必ず医療機関を受診しましょう。